

近現代史(36) アジア諸国の改革と民族運動③「インド・東南アジアの民族運動」

○今回のポイント

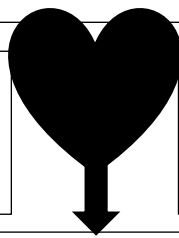
【インドでの民族運動の形成】

(1)英領インドへの資本輸出

- インドにおけるイギリスの[1. _____]整備 → 鉄道などの通信交通手段
- ↓
- 商品作物の生産がすすむ…[2. _____]作物(コーヒー、茶など)、工業原料作物(綿花など)
- ↓
- 利益はイギリス本国に → インドの人々には大きな経済的負担

(2)インド国民会議結成

インド人の民族的な自覚
※原因：植民地エリート階層が
人種差別を経験！



イギリス本国側の思惑
インド人エリートを植民地支配に
利用する

1885 [3. _____]結成 [4. _____]大会
イギリスがインド人の不満をそらせ、対英強調を求めるために、商人・地主・知識人などの代表で創設した組織。第1回はボンベイで開催された。設立当初はインド総督に諮問されるだけの会議で穏健であった。

(3)インド国民会議カルカッタ大会

- 1905 [5. _____]・・・[6. _____]立案。ベンガルをイスラーム教の東ベンガルとヒンドゥー教の西ベンガルに分割する法令。反英抵抗運動の分断・地租の増収を狙った典型的な分割統治政策。
- ↓
- 反英闘争激化！
- ⇒ 国民会議では穏健派に代わり[7. _____]ら急進派が主導権を握り反対運動を展開。
- ⇒ 日露戦争での日本の勝利がアジア諸国のナショナリズムを昂揚させる！
- ↓
- 1906 インド国民会議[8. _____]大会 → イギリスに真正面から対抗する姿勢！

9.	10.	11.	12.
イギリス資本をボイコット！	国産品愛用	インド人による自治・独立	精神的に奴隷化させる 植民地教育を否定

(4)イギリスの対応

①ムスリムの利用→イスラーム教徒に親英的な[13. _____]を結成させ国民会議派と分断(1906)。

②沈静化策

- a.武力弾圧
- b.懐柔策・・・インド人を一部行政組織に参加させる。ベンガル分割令を撤回(1911)
- c.首都の移転・・・カルカッタから旧都[14. _____]へ

【東南アジアでの民族運動の形成と挫折】

(1) 東南アジアにおける植民地運動の挫折

○タイ以外の全ての地域が植民地支配下 → 抵抗運動を行うも、弾圧を受けて挫折。

(2) 蘭領東インド

① 19世紀末～[15. _____]…19世紀末から農民サミンが始めた民衆運動。オランダ支配に抵抗し、原始共産社会への回帰を求める。

② 植民地政策の根本的な見直し（16. _____の廃止など）

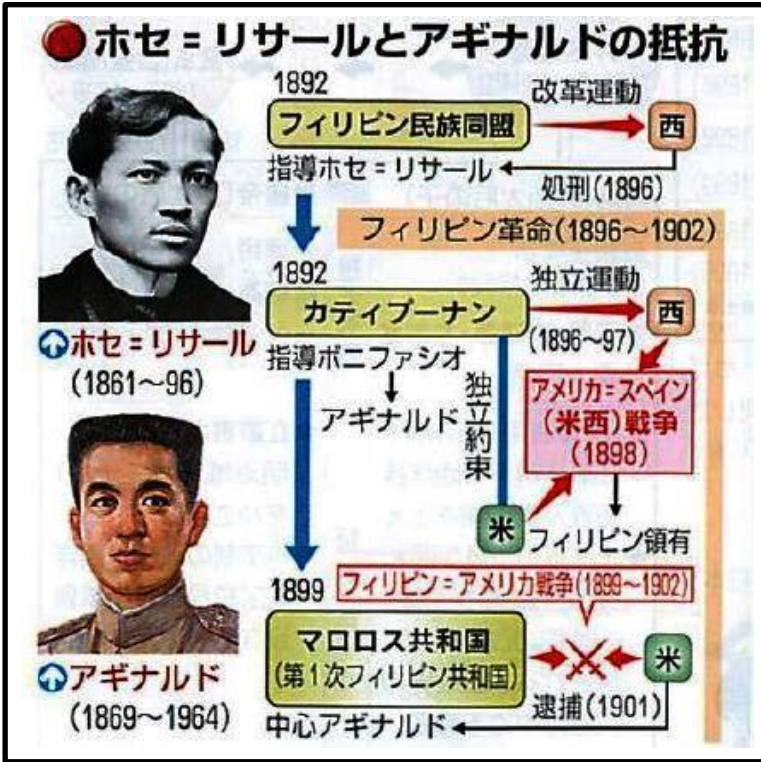
- ・住民への福祉政策…現地人官吏養成政策の一環として多くの学校が設立
- ・貴族の子弟を中心にオランダ語教育や専門教育

→ 民族的自覚が生まれる→知識人主体の民族運動団体[17. _____]結成。

③[18. _____]

- ・1911年に結成された民族的な組織。当初は相互扶助的性格が強かったが、政治的活動も行うようになった。1918～20年の民族運動の昂揚期には中心的な役割を果たし、民族独立や社会主義を掲げる。
- ・植民地政庁の弾圧を受け、組織は崩壊し、20年代にはいと急速に衰退。

(3) フィリピン



[19. _____]

スペインに留学中、民族意識に目覚め帰国後に [20. _____] を結成。平和的な改革を目指したが、逮捕・流刑。秘密結社カティプーナンの武装蜂起を契機に処刑された。

[21. _____]

フィリピン民族同盟に参加するがホセ=リサールの逮捕・流刑により瓦解。秘密結社 [22. _____] を結成して武装蜂起しフィリピン革命が始まった。貧困層出身のボニファシオは首長層のアギナルドと対立し殺害された。

[23. _____]

米西戦争を契機に闘争を再開し、マロス共和国を建国するも、フィリピンを買収したアメリカと [24. _____] が勃発。アメリカが勝利し、アメリカのフィリピン統治が開始。

(4) ベトナム

1904	ファン=ボイ=チャウ、反仏独立を目指す秘密結社 [25. _____] を組織。
1905	ファン=ボイ=チャウ、日露戦争に勝利した日本への留学運動 [26. _____] (東遊運動) を展開
1907	[27. _____] ; 日本の韓国支配とフランスのインドシナ支配を相互承認。日本は反仏運動を弾圧。ドンズー運動は挫折した。
1912	ファン=ボイ=チャウ、辛亥革命に刺激されて [28. _____] を設立。武力革命を目指したが弾圧され衰退した。



ファン=ボイ=チャウ